

十勝農畜産物プロジェクト採択へ

文科省の「都市エリア産学官連携促進事業」

【札幌 函、青丘市が申請していた十勝産農畜産物の付加価値を高める技術開発計画が、文科省の「都市エリア産学官連携促進事業」に採択される見通しとなった。採択されれば、道内では函館地域に次ぎる力所となり、3年間にわたって毎年一億円程度の補助が受けられる。道は、この事業

（平野明）

付加価値高め商品化

ビジネスパーク地方展開に期待

十勝のプロジェクトは5件の事業で構成。このうち①でんごん工場が排出するシャガイモ加工後の残さ物のソバ、②類のスパラフトへ芽出し野菜（シャガイモの枯り）以上から高血圧抑制な成分をコントロールする成分の機能性を抽出し、成分解析、効果を確認する動物実験、商品開発に取り組む。

③は全性確保技術開発の食品機能性評価システム。④ではチーズの風味と関係のあるスターター用酵母を乳酸菌で独自開発、食中毒の原因である黄色ブドウ球菌を迅速に検出する装置の開発も進める。⑤では機能性成分の効果を利用したサプリメントへ、遺伝子レベルで効果確認方法を確立する。

事業展開は、青丘大、十勝圏振興機構を中核とし、道立畜試、道立根創農

試、道農研研究センター、道農研共同研究企業は、日本総務省と「都市エリア産学官連携促進事業」に採択される。3年間で

6億円の補助が支給される経産型事業が新設され、今回の一般型で成果を上げれば、大型補助への道も開ける。

道は事業申請について「二次産物は本道の基幹産業。水産が函館なら農産は十勝で」といって1年前から準備を進めてきた。産学官連携で、地域の産業界が活性化し、「自走」できる環境づくりの起爆剤としてこの事業の意義がある」と説明している。文科省は、28日午後にも採択を正式発表するとみられる。

△都市エリア産学官連携促進事業▽大学などの研究成果を基に、新規事業や研究開発の産学連携を促進することを狙い、この年度に採択された。昨年度まで全国約400の地域が採択されている。